

2. 整備・維持管理

甲府城跡は明治時代以降、著しい都市近代化のなかで、昭和30年代までには往時の面積の2/3程度までの姿を失い、残る約1/3についても多くの諸施設や記念碑が建設されるなど、その歴史景観は大きな変貌を遂げた。この状況のなか、山梨県教育委員会は、昭和42年（1967）に甲府城跡総合学術調査団を組織し、翌昭和43年（1968）に舞鶴城公園として現存していた約5.2haの範囲を県の史跡に指定した。さらに昭和44年（1969）には、甲府城の歴史と将来あるべき姿を多角的な視点からまとめた『甲府城総合調査報告書』を刊行した。この『甲府城総合調査報告書』の考え方は、その後の甲府城跡の取り扱いに大きな方向性を与え、平成2年（1990）から始まる舞鶴城公園整備事業の基本計画もこの報告書を基本に踏襲され、現在における整備等の方針も基本的にこれを踏襲している。

（1）史跡指定地内の整備

甲府城跡における整備は、石垣整備の状況から、以下のとおり大きく3つの画期を有する。

第一期（平成2年（1990）～平成16年（2004））：舞鶴城公園整備事業・石垣改修工事

第二期（平成17年（2005）～平成26年（2014））：鉄門復元整備事業・石垣補修工事

第三期（平成27年（2015）～）：石垣維持管理事業

1) 第一期：平成2年（1990）～平成16年（2004）

甲府城は史跡・公園として貴重な観光資源と考えられるものの、その価値が十分に活かされていないことから、山梨県は平成元年（1989）に『舞鶴城公園整備計画』を作成し、平成2年（1990）から文化財・都市公園としての整備と機能充実を目的とした舞鶴城公園整備事業に着手した。

舞鶴城公園整備事業は、県史跡甲府城跡を「A：本丸地区を中心とした歴史・シンボルゾーン」・「B：鍛冶曲輪地区を中心とした集いと憩いのゾーン」・「C：多様な石垣の形態を表出するゾーン」・「D・E：スポーツ・遊びのゾーン」として、ゾーン分けを明確にした上で、「甲府城調査検討委員会」の指導のもと、石垣改修工事、修景施設、便益施設、管理・インフラ設備工事のほか、占用施設等の撤去を進めた。

【石垣改修工事】

孕み出し等の変形によって崩落の危険が高い石垣の解体・積み直し、そして地震や利用目的の変化で改変されたり、明治期以降に積み直された様相の異なる石垣の撤去と積み直しによって、崩落の危険を排除するとともに伝統的な技術での積み直しによる歴史的景観の再現を目指した。

この石垣改修工事では、石垣を解体して積み直すため、まず工事個所を決定したのち石垣の写真実測を行い、解体範囲を決定する。その後、石垣面ごとに築石一つ一つに通し番号を付け、測量図への記入、写真撮影の上で解体し、石材重量・積面の縦横長さ・控えの長さを記録していった。あわせて裏側の盛土の状況と裏栗石の幅等を記録した。さらに根石の地盤及び胴木を記録する発掘調査を実施した。

石垣解体による改修工事は平成2年（1990）から平成14年（2002）にかけて選定された石垣に対して順次実施していった。最も重要な天守台周りの石垣は未改修としたが、その穴蔵の入り口及び穴蔵内部周りには改修をおこなった。本丸では、曲輪外周の北側石垣の上半

部及び北西部とこの内側の腰石垣、銅門周辺、さらに曲輪南側の内側にあたる腰石垣を改修対象とした。二の丸は北側の内松陰門周辺の石垣に孕み出しや明治時代以降のコンクリート改変が多く、ほぼ全体の積み直し改修とした。天守曲輪は天守台・本丸の南側を取り巻くように高い石垣が特徴で、明治時代以降の間知積みによる改変やコンクリート石垣が多くみられ、広い範囲での積み直し改修を行った。稲荷曲輪では、曲輪内東側の腰石垣に明治時代以降の間知積みによる改変があり、石垣解体により内部からさらに野面積石垣が見つかった。また稲荷門付近の石垣は昭和の台風で崩落した箇所でもあったため積み直しを行った。稲荷櫓台石垣は、櫓建造物復元のための補強として石垣改修を行ったものである。鍛冶曲輪は、南側が堀に面していて軟弱な地盤であることから発掘調査でみつかった胴木による地盤補強技術を反映させた伝統工法での改修とした。こうした石垣解体改修を伴う整備事業は平成16年（2004）まで継続した。

【修景施設】

歴史的建造物については、文献・絵図・古写真・発掘調査等の史料の検討により復元根拠を明確にしたうえで、可能な限り史実に忠実な姿での復元を実施した。平成9年（1997）に鍛冶曲輪門、平成11年（1999）には稲荷曲輪門及び内松陰門、平成16年（2004）には稲荷櫓を復元し、また、平成10年（1998）より漆喰塀の整備を本格的に開始し、本丸・天守曲輪から始まり、以降鍛冶曲輪、稲荷曲輪、数寄屋曲輪において設置されている。

【便益施設】

平成6年（1994）に鍛冶曲輪において公園管理事務所建設や公共トイレを設置したほか、平成10年（1998）は本丸に、平成12年（2000）には稲荷曲輪に公共トイレがそれぞれ設置されている。また、来城者用の駐車場については、内城内には設けず、堀地区に設置した。

【管理・インフラ設備】

平成4年（1992）から平成16年（2004）にかけて、園路及び園路広場工事、照明器具の設置、水道管や電気配線の敷設工事等が行われた。

【占用施設等の撤去】

城内の占有施設については公園の整備方針、雰囲気合わないもの、公園利用上、不適切な位置にあるものは移設、または用途を変更して利用する方針とした。この結果、昭和40年（1965）に建設された山梨県立青少年科学センターは平成10年（1998）に閉館、翌平成11年（1998）に解体、昭和41年（1966）建設の議員会館は平成16年に撤去された。さらに、城内各所に所在した記念碑についても、関係各所に移設する等の措置を行った。また、樹木についても、眺望・石垣に影響がある障害木、ヒマラヤスギやドイツトウヒなど城の雰囲気に合わない樹木の除去等をおこなった。

2) 第二期：平成17年（2005）～平成26年（2014）

【石垣補修工事】

平成16年（2004）までの舞鶴城公園整備事業で課題とはなっていたが改修対象としなかった未改修の石垣に対して将来的な変異変形や落石が想定され、安定・安全化を図る必要性が再認識され、利用者等の安全確保と文化財として石垣変異変形の防止のために、石垣の危険部位の撤去と補強及び不足部分への石材補充による石垣補修工事を実施していくこととした。

石垣補修工事の事前調査として、対象石垣の表面清掃等の現状把握調査を行い、施工箇所と施工方法の検討をおこなう。この調査成果を受け、実際の施工では、落下の可能性のある石材の除去・補強、詰石の落下部分への補充、石材表面の風化部分の除去、裏栗石の流出防止・補充、緩んだ詰石の叩きしめなどを実施している。こうした石垣補修工事は、平成 26 年（2014）までの間、天守台周り石垣、本丸南面石垣・西面石垣、二の丸西面石垣、稲荷曲輪と数寄屋曲輪の東面石垣等で順次進めていった。また、後述する鉄門復元整備事業に伴って、平成 22 年（2010）鉄門周りの石垣に対しても補修を行っている。

【鉄門復元整備事業】

山梨県教育委員会は平成 17 年（2005）から平成 21 年度（2009）にかけて、甲府城跡保存活用等検討委員会を設置し、天守閣復元の可能性や本丸を中心とした歴史的建造物に関する広範囲な調査検討をおこなった。その成果を踏まえ、平成 21 年（2009）に甲府城跡櫓門整備検討委員会を設置し、復元の検討が可能な櫓門 2 棟（鉄門・銅門）について、復元整備の可能性や方向性等の検討をおこなった。甲府城跡櫓門整備検討委員会での検討を受け、山梨県では史料が充実し、十分に復元の根拠が説明できると判断された鉄門を、鉄門整備事業として復元整備することとなった。

鉄門復元整備事業は、同事業に伴い設置した「県指定史跡甲府城櫓門跡復元検討委員会」の指導のもと、平成 22 年（2010）から平成 25 年（2013）にかけて実施した。復元にあたっては文献・絵図・古写真・発掘調査等の史料の調査・検討により復元根拠を明確にしたうえ、在来工法を駆使して可能な限り史実に忠実な姿での復元を実施している。

3) 第三期：平成 27 年（2015）～

【石垣維持管理事業】

平成 2 年（1990）から積み直しによる石垣改修、平成 17 年（2005）から石垣補修事業を実施してきたが、長年の経過により、築石のクラックや隙間、孕み出し、詰石の落下等の変状が確認されてきている。このため、甲府城石垣の長期にわたる構造物の安定と状態の保存を目的とした点検業務により、石垣の落石や崩落等の危険性を除去し、その変位変状を早期に発見し対策する石垣維持管理計画を平成 26 年（2014）に策定し、平成 27 年（2015）から石垣維持管理事業を実施している。

石垣維持管理事業では、全石垣の目視点検及び変状ゲージ計測とこの結果に基づいた近接目視による詳細点検及び軽微な補修を行い、これらの記録と維持管理方法の検討を行っている。補修は目視点検の結果により順次石垣を選定し、詳細な点検を行った結果で軽微なものに限り、浮石の除去、叩き締め、剥離除去等を行っている。また変状が見込まれる石垣の築石の約 140 か所ゲージ計測を定期的実施し、長期的なデータの蓄積と変動の観察を行っている。詳細点検と軽微な補修は、順次継続的に稲荷曲輪外の北側石垣から東側石垣、また曲輪内西石垣に対して実施、その点検結果を記録し、令和 2 年（2020）現在も実施している。

(2) 史跡指定地外の整備

1) 甲府市歴史公園周辺

平成 15～22 年度において甲府駅周辺拠点形成事業の一環で甲府市歴史公園として、山手門や山手渡櫓門の周辺が整備され、平成 19 年度（2007）3 月に完成した。本地点は、国鉄時代には貯炭場として機能していたため、遺構の残存状況があまり良くなかったが、発掘調査で発見された石垣をベースにして、石垣の積み直しを行い、建物は柳沢治世時代をイメージして伝統的な工法を用いて復元している。また、土手や内堀も一部再現されている。対象面積は 6,039 平方メートルである。

また、甲府駅北口駅前広場の整備に先駆けて発掘調査したところ、清水曲輪と櫓周辺の石垣が発見された。広場の一角であるが石垣を復元し露出展示してある。平成 22 年（2010）7 月に完成した。

2) 山梨県防災新館甲府城石垣展示室

平成 21 年（2009）3 月に「県庁舎耐震化等整備基本計画」が策定され、山梨県防災新館は防災拠点としての役割を果たすために、旧庁舎を取り壊して建設された。平成 22 年度に旧庁舎解体時に楽屋曲輪南西部の石垣が発見されたことから発掘調査を行うと共に、記録保存後に石垣を解体して新しい庁舎の地下に移築することが決定し、翌年の平成 23 年度に残存石垣の 13 メートル分を移築し、石垣展示室として整備されるに至った。平成 25 年度に保存処理された胴木も展示され、ガイダンス設備と共に開設した。国内でも最大規模の屋内展示となっている。

3) 県庁構内

「県庁舎耐震化等整備基本計画」の一環で県議会議事堂委員会室棟改築工事に伴う事前調査が平成 26 年度に実施され、温泉施設と考えられる石敷遺構が発見された。これは絵図にも記載がみられる「湯出ル」等の標記がされる地点と合致したことから、遺構の埋設保存を講じた。現地には温泉関連遺構解説看板の設置が行われている。

4) 甲府城下町

甲府市では、昭和 59 年（1984）に、町の由来を記した都市美化標柱を設置した。現在は 50 箇所ほどが各所にある。この中には城下町の町人地における旧町名表示看板も含まれており、地域の由来を知ることができるようになっている。

県公用車駐車場地点から発見された遺構を埋設保存し、平成 30 年（2018）1 月に現地の遺構を解説した看板が県財産管理課により設置された。

令和元年（2019）に開府 500 年を記念してストリートミュージアム「小江戸甲府 VR」が甲府市によって整備され、6 箇所のスポットが整理されている。



甲府城石垣展示室内に石垣を復元展示



甲府城跡東側石垣の補修工事の状況

第一期 史跡甲府城跡の主な整備 一覧表（石垣以外）

第一期 平成2年（1990）から平成16年（2004）

年度	施設名	地区	工期	備考
平成2	舞鶴城公園整備事業着手に伴い発掘調査を開始	—	—	
	石積工	内堀	H3.2～H3.6	堀（西側）
平成3	浄化槽設置	内堀	H3.12～H4.5	堀（東側）
	石積工	内堀	H3.9～H4.6	堀（南側）
	園路広場工	稻荷曲輪	H4.1～H4.8	児童公園
平成4	園路広場工	稻荷曲輪	H4.10～H5.3	児童公園
平成5	堀設置	鍛冶曲輪	H5.7～H6.3	
	公園管理事務所等設置	鍛冶曲輪	H5.11～H6.6	
	石積工	鍛冶曲輪	H5.12～H7.3	
	庭園造成	鍛冶曲輪	H6.3～H7.3	
平成6	園路舗装工	鍛冶曲輪	H6.11～H7.3	
平成7	園路舗装工	鍛冶曲輪	H7.9～H8.3	日本庭園南
	鍛冶曲輪門復元整備	鍛冶曲輪	H8.3～H9.2	
平成8	トイレ設置	本丸	H9.3～H10.3	
平成9	堀設置	本丸、天守曲輪	H10.2～H10.9	
	堀設置	鍛冶曲輪	H10.2～H10.12	
	堀設置	稻荷曲輪、数寄屋曲輪	H10.2～H11.1	
平成10	稻荷門復元整備	稻荷曲輪	H10.8～H11.7	
	内松陰門復元整備	二の丸	H10.9～H11.7	
	堀設置	二の丸	H10.9～H10.10	内松陰門北
	堀設置	稻荷曲輪	H10.12～H11.3	東
	堀設置	鍛冶曲輪	H11.2～H11.6	
	堀設置	稻荷曲輪	H11.2～H11.6	稻荷門付近
	園路整備	堀	H11.2～H11.10	JR跡地（稻荷曲輪北）
平成11	植栽工	稻荷曲輪・数寄屋曲輪・鍛冶曲輪	H11.3～H11.6	
	青少年科学センター撤去	稻荷曲輪		
	県民会館一部、県庁東別館、舞鶴会館撤去	楽屋曲輪、内堀		
	園路工	天守曲輪・鍛冶曲輪	H11.6～H11.11	
	石積工	堀	H11.9～H12.1	稻荷曲輪・数寄屋曲輪の東
	園路工	鍛冶曲輪	H11.9～H12.3	
	トイレ設置	稻荷曲輪	H11.12～H12.8	
	園路工	天守台・二の丸・本丸・天守曲輪・鍛冶曲輪	H12.2～H12.8	
遊亀橋梁下部工	内堀	H12.2～H12.7		

年度	施設名	地区	工期	備考
平成 12	遊亀橋梁上部工	内堀	H12.4~H12.9	
	水道管添架	内堀	H12.7~H12.10	
	電線類添架	内堀	H12.7~H12.10	
	照明設置	?	H12.8~H12.10	武徳殿東・公園東歩道
	浄化槽修繕	内堀	H12.8~H12.10	
	稲荷櫓復元工事	稲荷曲輪	H13.3~H16.3	
平成 13	石積工	稲荷曲輪	H13.7~H13.12	
	園路広場工	鍛冶曲輪	H14.2~H14.3	
平成 15	園路広場工	稲荷曲輪	H16.1~H16.2	
	植栽工	稲荷曲輪	H16.1~H16.2	
	照明設置	稲荷曲輪	H16.1~H16.2	
	舗装工	稲荷曲輪	H16.1~H16.2	
	昇降機設置	稲荷曲輪	H16.1~H16.2	
	植栽工	稲荷曲輪	H16.2~H16.4	
平成 16	園路広場工	内堀	H16.8~H17.2	あじさい広場
	サイン設置工	全域	H16.10~H17.2	

第二期 史跡甲府城跡の主な整備 一覧表（石垣以外）

第二期 平成 17 年（2005）から平成 26 年（2014）

年度	施設名	地区	工期	備考
平成 25	鉄門復元整備	本丸	H22~H25	

史跡外の甲府城跡の主な整備 一覧表（石垣以外）

年度	施設名	地区	備考
平成 19	甲府城跡山手御門復元整備	清水曲輪	
	甲府駅北口石垣復元整備	清水曲輪	
平成 25	防災新館石垣展示室オープン	楽屋曲輪	
平成 27	山梨県議会議事堂委員会室棟脇に遺構解説看板設置	楽屋曲輪	石組み水路遺構と石敷き遺構（温泉遺構）の解説

史跡甲府城跡の石垣整備 一覧表

第一期：平成2年(1990)～平成16年(2004)：石垣改修工事

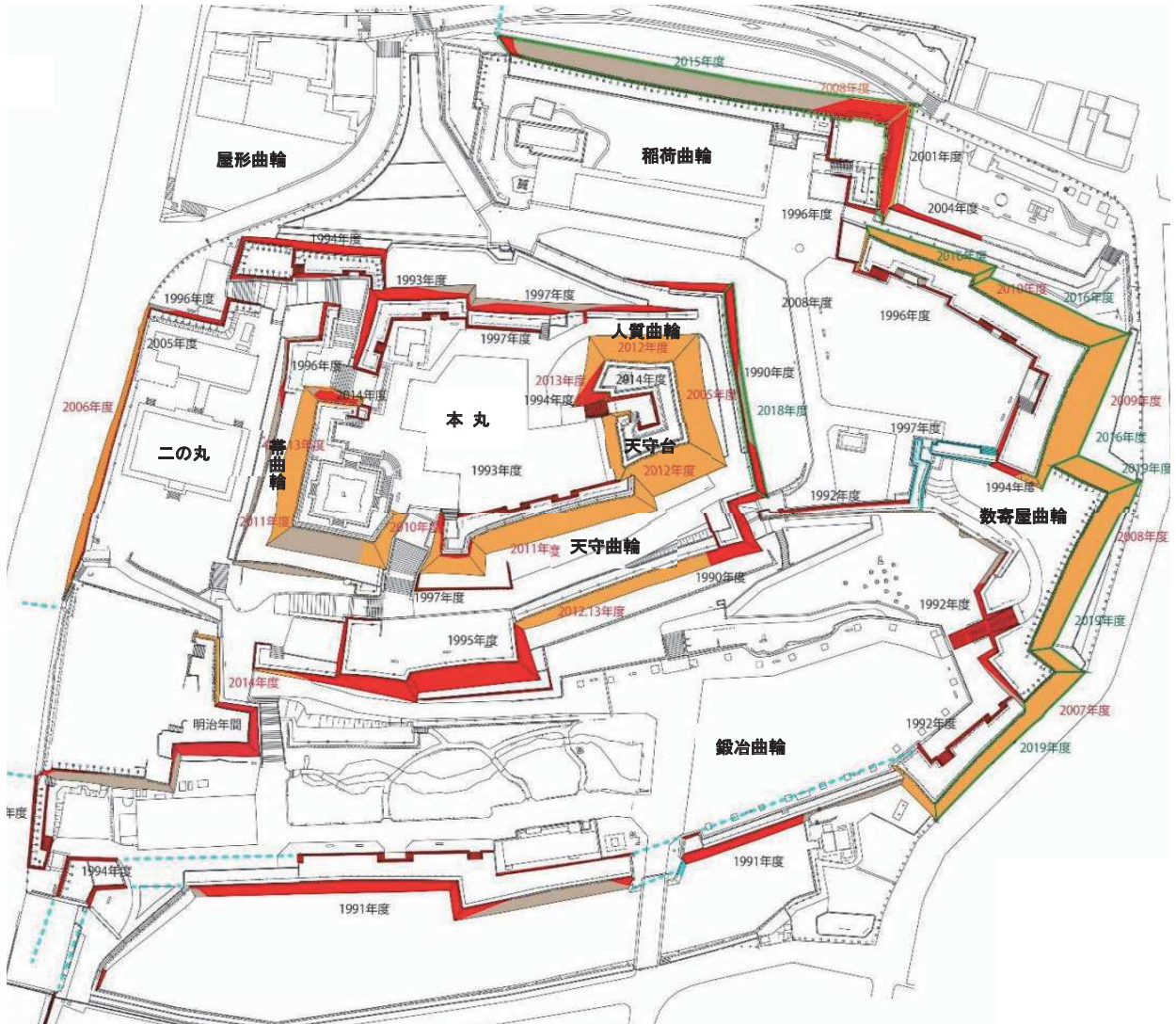
年度	石垣地点
2・3年度	天守曲輪
3・4年度	数寄屋曲輪
3～6年度	鍛冶曲輪
4年度	本丸
4・8・9年度	稲荷曲輪
5年度	天守台・本丸
4～9年度	二の丸
7・8年度	天守曲輪・帯曲輪
8・9年度	本丸
10年度	人質曲輪

第二期（平成17年(2005)～平成26年(2014)）：石垣補修工事

年度	石垣地点（ナンバー）	地点	報告書	面	条件
16年度	I-5 西側（改修）	稲荷櫓台東側	223	東	公園広場
17年度	T-2	天守台	233	東	園路面
18年度	N-44	二の丸	243	西	武徳殿西側
19年度	K-28・29、S-2・3	鍛冶曲輪・数寄屋曲輪	250	東	公道面
20年度	S-1・2	数寄屋曲輪	262	東	公道面
21年度	I-32・35・36	稲荷曲輪	267	東・西	公道面
22年度	I-30～32、I-80・82	稲荷曲輪	276	北西	園路面
23年度	H-59～62、70	本丸	286	南西	広場面
24・25年度	T-1・3、H-70・28、Tn-5、T-4・16～18	天守・天守曲輪	299	南西・南	園路面
26年度	N-26・34、Tn-15、H-28	坂下門・銅門・天守台穴蔵	303		園路面

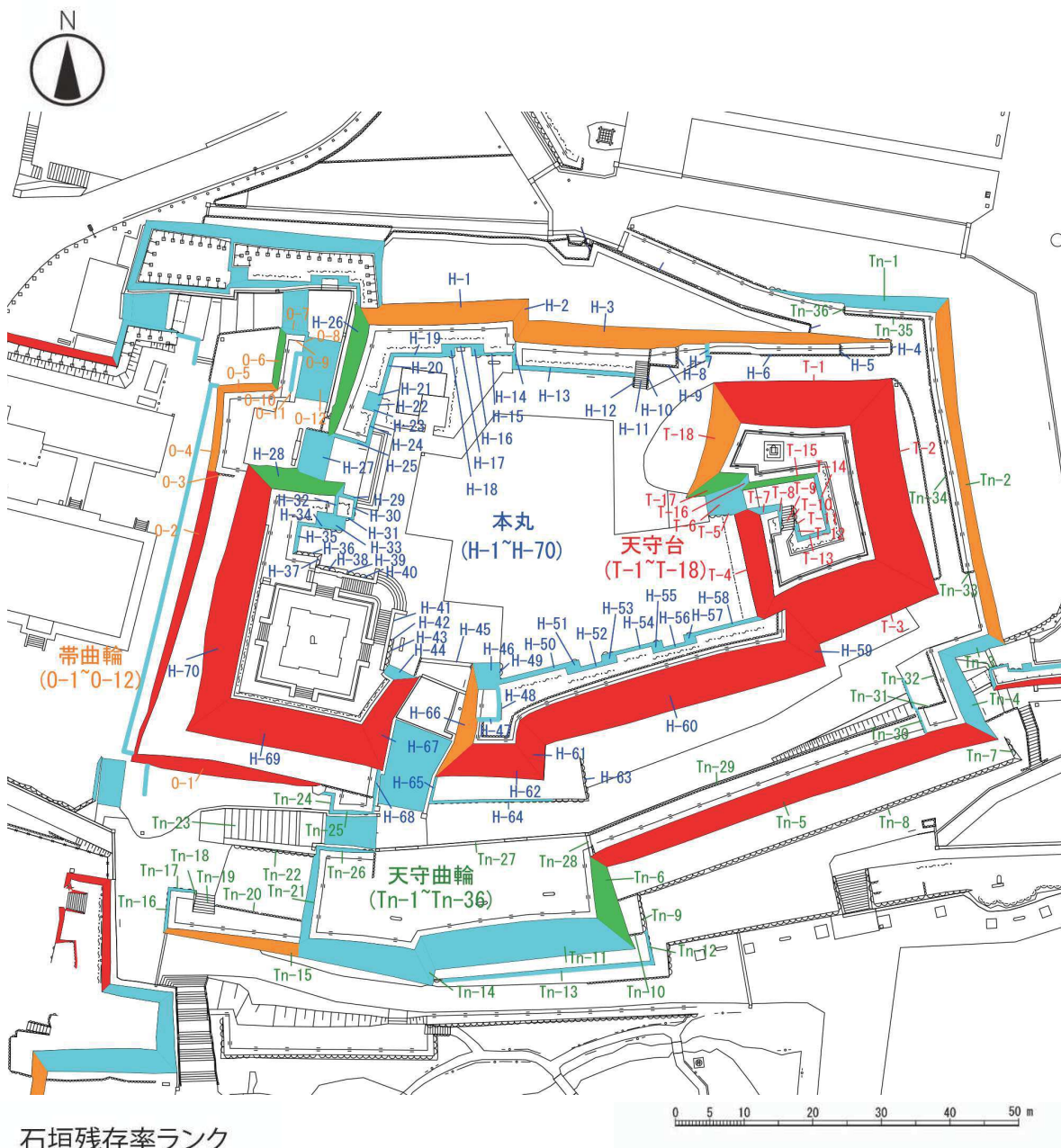
第三期（平成27年（2015）～）：石垣維持管理事業

年度	石垣地点（ナンバー）	地点	報告書	面	条件
27年度	I-3・4	稲荷曲輪	—	北	公道面
28年度	I-5・30・31・32・35	稲荷曲輪	—	北東	公道面
29年度		トイレ火災年度（中止）	—		
30年度	T-2	天守曲輪	—	東	園路面
31年度	S-1・2・3、K-28	数寄屋曲輪・鍛冶曲輪	—		公道面
令和2年度	N-3・4・8・12・13・14・17・44（一部）・45・46	二の丸北側	—	西	公道面
令和3年度	N-40・41・42・44（一部）	二の丸南側・報告書作成		西	公道面



- 石垣改修 (解体積直し)
- 石垣補修 (詰石等)
- 維持管理詳細点検
- 復元
- 未改修

石垣整備状況図



石垣残存率ランク

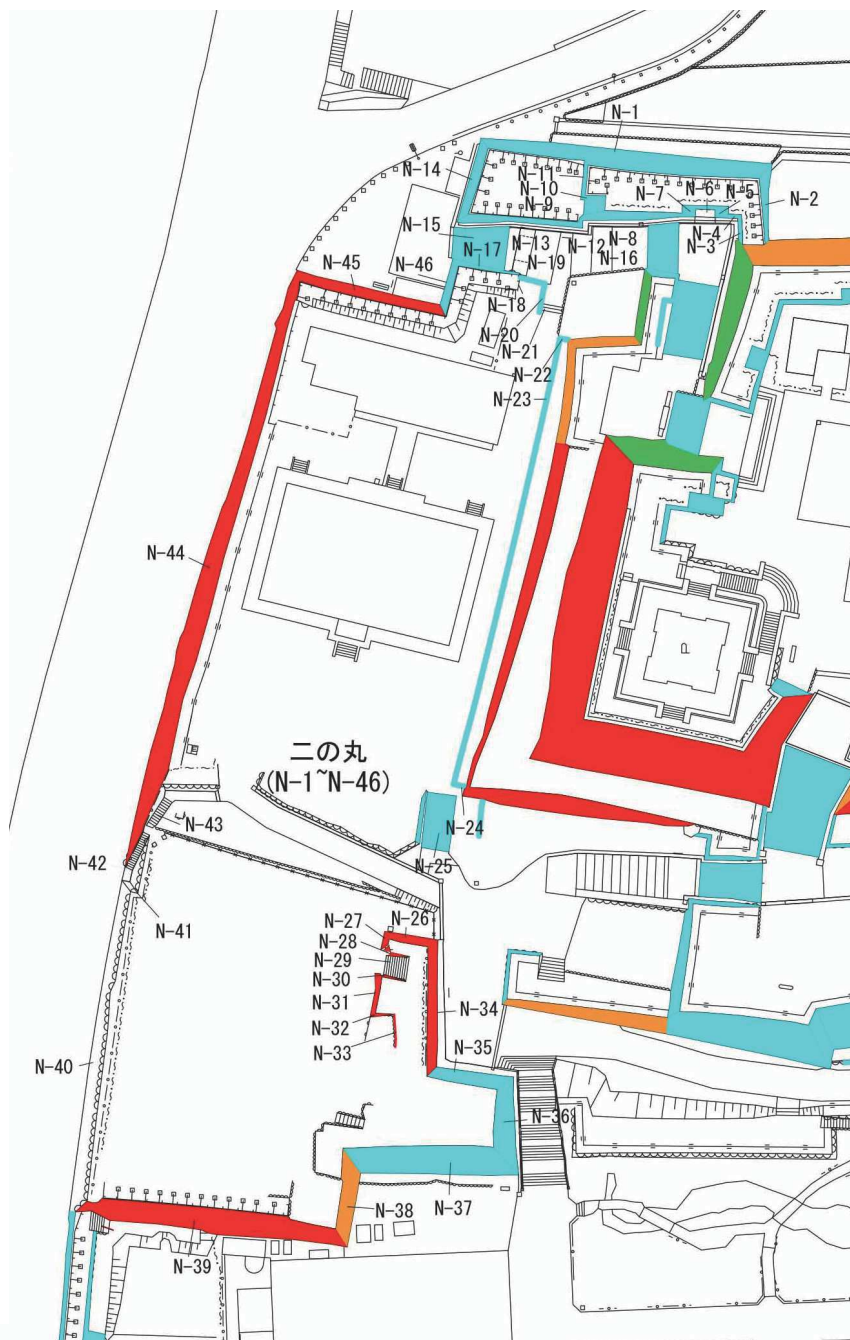
- A 75%以上
- B 25%以上
- C 25%以下
- 解体積直し

※1 図中の石垣番号は「史跡内に存在する石垣の改変状況一覧表」に対応する。

※2 石垣残存率ランクは築城期、江戸時代の石垣に対するものである。

※3 石垣残存率ランクは各石垣番号毎に示す。 以下同様

石垣改変状況ランク区分図（本丸・天守台・天守曲輪・帯曲輪）

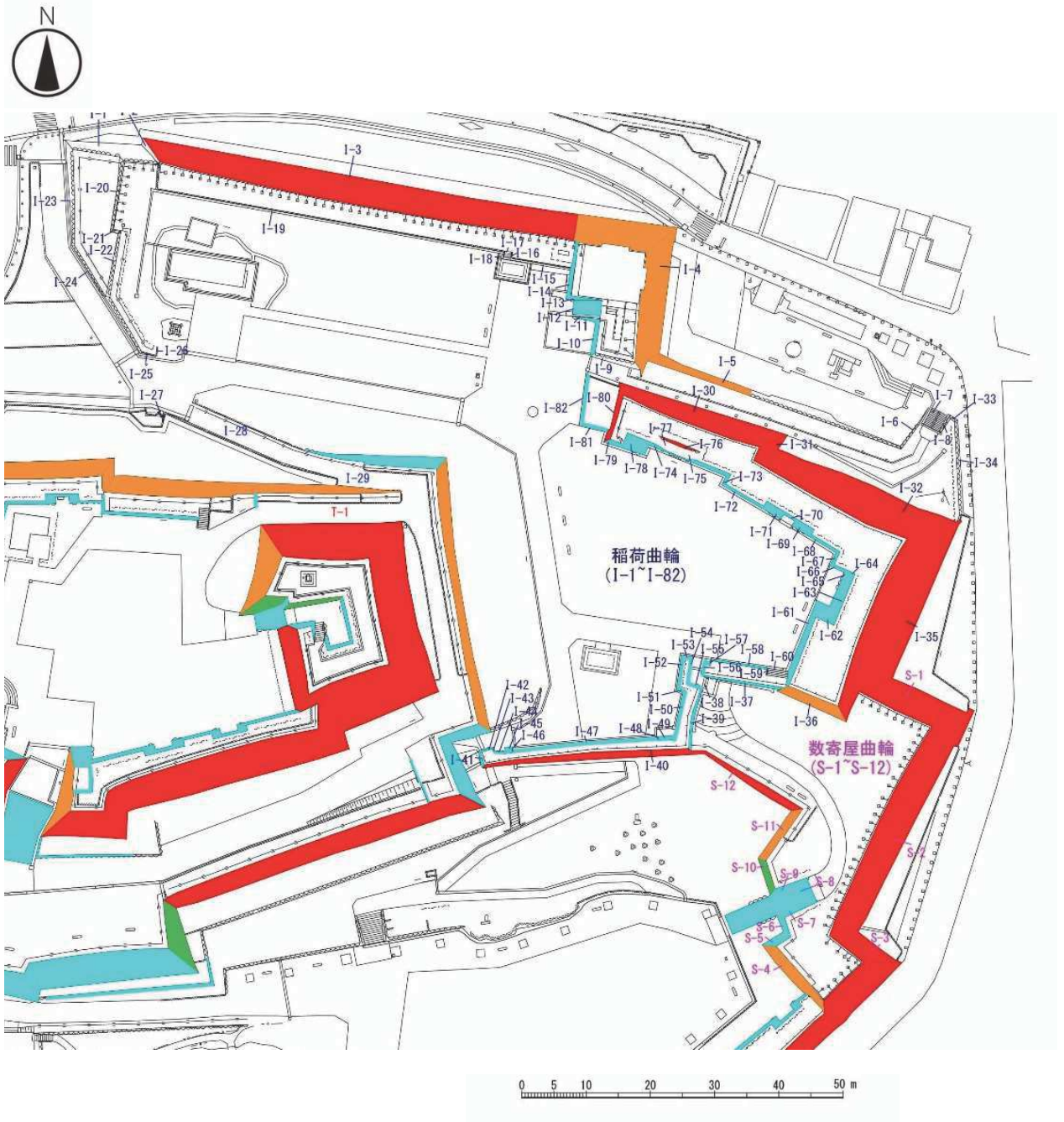


石垣残存率ランク

- A 75%以上
- B 25%以上
- C 25%以下
- 解体積直し



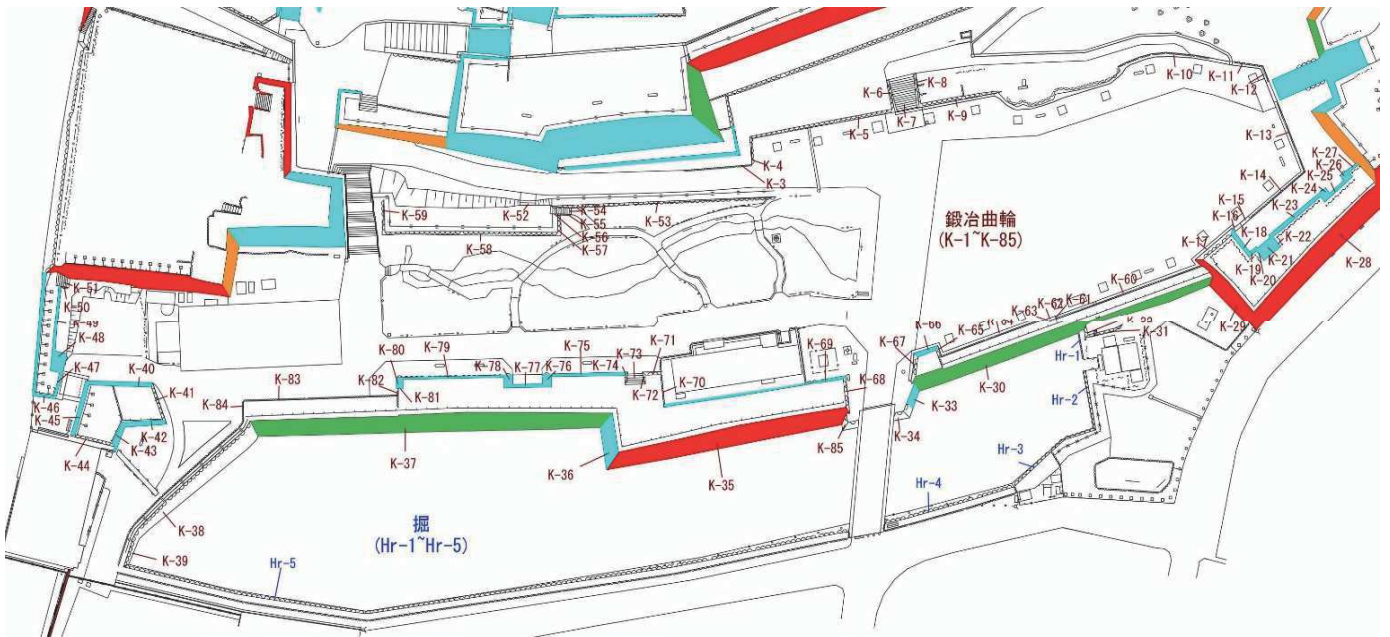
石垣改変状況ランク区分図（二の丸）



石垣残存率ランク

- A 75%以上
- B 25%以上
- C 25%以下
- 解体積直し

石垣改変状況ランク区分図（稲荷曲輪・数寄屋曲輪）



石垣残存率ランク

- A 75%以上
- B 25%以上
- C 25%以下
- 解体積直し

石垣改変状況ランク区分図（鍛冶曲輪・堀）